

[成果情報名] 黄色夏秋ギク「精の頂」の栽培特性

[要約] 黄色夏秋ギク「精の頂」は、7月～8月開花作型において、草丈伸長性、切り花品質に優れる優良品種である。また、元肥のみの管理でも90cm調整重は、60g以上となり、省力管理が可能である。

[キーワード] 夏秋ギク、黄色、精の頂、草丈伸長性

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・花き科

[連絡先] 電話（代表）0957-26-3330 （直通）0957-26-4319

[区分] 花き

[分類] 指導

[背景・ねらい]

現在、黄色の夏秋ギク品種は、花色の薄さ、高温による開花遅延、摘芽摘蕾数が多い等の問題があり、各産地内でも統一されていない。

そこで、近年、民間種苗会社で育成された黄色夏秋ギク品種を用いて比較試験を行い、最も有望な品種を選定し、各開花作型における栽培特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「精の頂」は、7月開花作型において、「精の曲」より摘芽摘蕾数が少なく、草丈伸長性に優れており、「精の輝」より開花が19日早い（表1）。
2. 「精の頂」は、7月開花作型において、摘心栽培、無摘芯栽培に関わらず、草丈伸長性に優れている（表1、表2）。
3. 「精の頂」は、7月、8月開花作型において、密植状態で定植し、10a当たりの窒素量を10kg程度の元肥のみの管理でも90cm調整重は60g（長崎県切り花標準出荷規格で最上規格）以上となり、省力管理が可能である（表1、表2、表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「精の頂」は、消灯から収穫までの日数が「岩の白扇」より3～8日長くなるため、消灯を3～8日早く行う必要がある。ただし、草丈伸長性に優れており、定植日は「岩の白扇」と同日で問題ない。
2. 「精の頂」は、摘芽・摘蕾数が20個前後と「岩の白扇」よりやや多い。
3. 「精の頂」は、高温期に柳葉数が増加し、花首も伸びるため、再電照の時期やビナーイン処理に注意する。

[具体的データ]

表1 7月開花における生育特性 (2006年)

品種名	色	消灯時		収穫日	切花長	葉数	柳葉数	花首長	切花重	90cm調整重	摘芽・摘蕾数
		草丈 (cm)	葉数 (枚)								
精の頂	黄	55.6	23.5	7月7日	107.1	50.7	1.9	1.8	87.0	70.8	20.1
精の曲	黄	46.8	25.0	7月2日	92.3	50.6	1.3	0.4	75.1	63.1	25.2
精の輝	黄	51.4	22.7	7月26日	120.0	51.0	1.1	1.4	85.8	62.3	11.6
岩の白扇	白	50.2	25.0	6月29日	106.6	51.5	1.7	1.6	80.3	64.2	14.8

注1) 直挿し 2006年3月30日 12cm、7目に1本植え 無摘芯栽培

注2) 電照 点灯 3月30日 消灯 5月15日 再電照 5月28日～5月30日

注3) 施肥 N - P₂O₅ - K₂O : 20.2 - 19.5 - 19.5 (kg/10a) 元肥 (50%) + 追肥 (50%)

表2 7月開花における生育特性 (2007年)

品種名	色	消灯時		収穫日	切花長	葉数	柳葉数	花首長	切花重	90cm調整重	摘芽・摘蕾数
		草丈 (cm)	葉数 (枚)								
精の頂	黄	49.5	16.3	7月11日	111.6	42.8	2.8	2.9	83.8	69.4	24.1
岩の白扇	白	35.2	14.6	7月8日	75.1	37.9	2.5	1.6	45.6	41.1	7.8

注1) 直挿し 2007年3月30日 13.5cm、5目に1本植え

注2) 摘芯 2007年4月16日 2本仕立て

注3) 電照 点灯 3月30日 消灯 5月23日 再電照 6月6日～6月8日

注4) 施肥 N - P₂O₅ - K₂O : 11.4 - 5.7 - 8.5 (kg/10a) 元肥のみ

表3 8月開花における生育特性 (2007年)

品種名	色	消灯時		収穫日	切花長	葉数	柳葉数	花首長	切花重	90cm調整重	摘芽・摘蕾数
		草丈 (cm)	葉数 (枚)								
精の頂	黄	66.6	24.5	8月17日	124.4	49.7	3.3	4.2	93.9	73.6	18.2
岩の白扇	白	40.3	17.4	8月12日	79.6	38.1	3.4	2.4	43.3	38.5	3.1

注1) 直挿し 2007年4月20日 13.5cm、5目に1本植え

注2) 摘芯 2007年5月7日 2本仕立て

注3) 電照 点灯 4月20日 消灯 6月21日 再電照 7月4日～7月6日

注4) 施肥 N - P₂O₅ - K₂O : 10.2 - 5.1 - 7.6 (kg/10a) 元肥のみ



図1 「精の頂」開花状態

[その他]

研究課題名：無側枝性秋ギク「晃花の富士」の栽培技術確立

予算区分：県単

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：峯大樹、諸岡淳司